翻訳にあたってのヒント
その 112

■　「PDIC と PDICU」を活用しよう

今回は、翻訳者の間ではおなじみのこれらの辞書ソフトの活用方法について紹介する。
特に便利な使い方とはExcelファイル形式の用語集をPDICUに対応した辞書形式にするというものである。こうすることで、いちいち Excel ファイルを開かなくても、翻訳作業中にサクサクと用語を検索できるので、時間の節約と翻訳作業の効率化につながる。
また、英日・日英辞書のみならず、英英（英英辞書）・日日（国語辞書）も当然つくれるし、専門用語・難解用語の解説集といった使い方もできるので、これ一つで百科事典のようなデータ集ですら作成可能な非常に秀逸なソフトである。

以下がその手順。

●　PDIC と PDICU を使って、Excel ファイルを辞書に変換する方法：

※　残念ながら PDICU（PDIC の新版でユニコード版＝シェアウエア ¥1,050、無料試用も可）から直接辞書をつくる方法を知らないため、この方法を紹介。また PDICU では、登録されている用語や言い回しをいちいち入力しなくても、ハイパーリンク機能でジャンプできるので、こちらの方が非常に便利である。

【手順１】

① 英日の場合だったら、Excel 用語集ファイルの「A 列にある英語」「B 列にある日本語」を、新規 Excel ファイルにコピーし、csv 形式で保存しておく（ファイル名は、例えば「csvEJxxx.csv」などにするなどして、あとで混乱しないように変えた方がよい）。
② PDIC（PDICU の旧版）を開いて、[File → 辞書グループオープン］をクリックして、辞書グループを開く。
③［File → 辞書グループ編集］をクリック。
④　下にある［辞書追加]をクリック。
⑤　［ファイルの種類(T):］で、「CSV(*.CSV)」を選択して、ファイル（変換元）」を選択。
⑥　「PDIC の辞書ではありません。PDIC 用辞書に変換しますか？」というダイアログボックスが開くので、[はい］をクリック。
⑦　次に開かれるダイアログボックスの［ファイルの種類(T):］で、「CSV(*.CSV)」を選択してから、[開く(O)］をクリック。
⑧　辞書の種類にある「○ Hyper 辞書形式」ラジオボタンを選択して、[OK］をクリック。
⑨　「転送元ファイル形式(S)」で「○ CSV 形式」ラジオボタンを選択して、[OK］をクリック。

⑩ ［新規作成(N)］をクリック。
⑪ 辞書の種類にある「○ Hyper 辞書形式」ラジオボタンを選択して、[OK］をクリック。
⑫ ［以降自動処理(A)］をクリック。
⑬ 「変換結果」ダイアログボックスで、[OK］をクリック。
⑭ 「辞書グループ編集」ウィンドウを閉じ、PDIC を終了する。

【手順２】

① PDICU を開き、[File → 辞書設定(W)］をクリックし、「ファイルメニュー」にある「○ 2 辞書ファイルの追加・作成」ラジオボタンを選択。[次へ(N)］をクリック。
② 「○ 2 すでにある辞書の追加」ラジオボタンを選択し、「辞書ファイル名(F)」の［参考(R)…］から追加する辞書があるフォルダとファイル（手順１で PDIC 辞書形式に変換した csv ファイル）を選択。[次へ(N)］をクリック。
③ 「○ 1 すでにある辞書グループへ辞書を登録する」ラジオボタンを選び、そのリストから辞書グループを選択。[次へ(N)］をクリック。
④ ［次へ(N)］をクリックして、自動設定を行う。
⑤ 「処理が正常に終了しました」というメッセージが出たら、[完了(F)］をクリック。
⑥ 「古いバージョンの PDCI 辞書です．新しい辞書に変換しますか？」ダイアログボックスで、[はい(Y)］をクリック。
⑦ 後は、[次へ(N)］をクリックして（ウィンドウが切り替わるので 5〜6 回？、特に確認は不要）、「次へボタンを押すと変換を開始します。」のダイアログボックスで、[次へ(N)］をクリック。
⑧ 「変換結果」ダイアログボックスで、[OK］をクリック。
⑨ 「変換処理は正常に終了しました。」ダイアログボックスで、[完了(F)］をクリック。
⑩ ［File → 辞書設定<詳細>E…］をクリックし、辞書が登録されたことを確認してから、元の Excel 用語集ファイルにある英語を検索欄に入力して、日本語訳が出力されることを確認する。
⑪ この時点で、PDICU を終了するか、そのまま使い続ける。それはあなたの勝手(^_^)。

※ 【手順１】の①で、「A 列にある英語を B 列に」「B 列にある日本語を A 列に」交換してから csv 形式で保存しておけば、同じ要領で新たに「日英」PDIC 辞書もつくれる。また用語集によっては C 列にも解説があるものもあり、この場合には C 列を加えることも可能。（ただし、D 列とそれ以降の列にある内容は PDIC 辞書にはうまく入力されないようである。）いずれにせよ、Excel ファイルにある A 列と B 列のみを使って英和・和英辞書をつくっておけば、翻訳中に PDICU でサクサク検索できるので大変重宝する。ただし、D 列とそれ以降の列に長々と解説が続いているような Excel 用語集ファイルの場合には、調べたい用語に遭遇したら、同ファイルでいちいち検索するのが万全の策である。面倒だが･･･しょうがない(´・ω・`)。

これらの手順は、このソフトを使ったことのない方にとっては煩わしいと感じるだろうが、一度コツをつかんでしまえば、その便利さに抗する人はいないと思う。

あにに く、この手順では画像を省いているが、以下のサイトには、画像付きの順を追った説明が紹介されているので、そちらも参考になる。

■　辞書ソフトの定番「Personal Dictionary」
http://e-trans.d2.r-cms.jp/blog_detail/id=42

また、PDICU で作成する辞書の本文に以下のようなタグも組み込めるので便利だ。

● **PDICU の対応タグ一覧　（太字、斜体、取り消し線、下線、文字の大きさや色など）：**

太字　Bold：　「」 と 「」で、文字を囲む。

斜体　italic：　「」 と 「」で、文字を囲む。

~~取り消し線~~　<s>strike-out</s>：　「<s>」 と 「</s>」で、文字を囲む。

下線　<u>UnderLine</u>：　「<u>」 と 「</u>」で、文字を囲む。

小文字　<small>small</small>：　「<small>」 と 「</small>」で、文字を囲む。

大文字　<big>big</big>：　「<big>」 と 「</big>」で、文字を囲む。

フォントの色（赤）赤：　「」と 「」で、文字を囲む。

赤マーカ：　「」 と 「」で、文字を囲む。　※PDIC 独自仕様

Size Up：　「」 と 「」で、文字を囲む。

ただし、タグについては取り扱い上の注意点があるので、詳細については、PDICU のヘルプを参照のこと。

以上これにて第 112 回目終わり。